

## 研究成果報告書（概要）

1998年5月15日

【昨年度までの研究】：ベネッセコーポレーションの定義する「新実学」のコンセプトに沿った形で、大学上回生から社会人5年生くらいまでの若い階層のキャリアに関する意識調査を行った。本学就職部の協力を得てCA（キャリア・アドバイザー）の集会時にアンケート+ヒアリング調査を実施した（1996年11月30日）。アンケート分析からは、工作上必要なスキルとして「コミュニケーション能力」、「グループワーク能力」などを抽出すると共に、それらのスキル項目と情報技術の活用との相関についても調査項目とした。また、特に若い社会人は職後3年目くらいまで自らのキャリア形成についてほとんど自覚的でない、という共通する傾向を確認した。

1）今年度は、昨年までの調査データをもとに、従来型の一方向型・単品消化型教材ではなく、「グループワーク」をコンセプトとしつつ、情報ネットワークの活用によるバーチャルな共有空間を応用した新しいタイプの教育商品のパッケージ化の可能性について検討した。また、「コミュニケーションの失敗」事例をネットワーク上のデータベースに蓄積するシステムを実験的に開発し、学生チームによるコミュニケーション・プロトコルの解析を進めた。

2）「コミュニケーションの失敗」分析の結果から、コミュニケーション能力の前提として「アウェアネス（気づき）」スキルの重要性が確認され、本年度のCA調査は、この項目と情報技術の活用をメインにおいて実施した（1997年11月15日）。その結果、各業態、業種、年齢とも「アウェアネス」項目に強い反応を示したが、コミュニケーションを得意とする層とそうでない層において、「アウェアネス」への反応が大きく異なっている傾向を確認した。

3）以上の研究結果を踏まえて、グループワークをコンセプトにした教材の可能性とその重要な教育項目としてのアウェアネスの存在について、研究報告書の形でベネッセコーポレーションに提出した。

(C)Copyright 1998 Koichi HOSOI  
Ritsumeikan University  
All rights reserved